

ICT 活用による業務の効率化

中核校	別海町立別海中央小学校	指定校	別海町立別海中央中学校 別海町立中西別小学校、別海町立中西別中学校
-----	-------------	-----	--------------------------------------

実践前の状況

- ・校務支援システムを使用し7年程度が経過し、成績処理、指導要録作成に係る業務、校内連絡等において一定の効果を感じているが、それ以上の活用が進んでいなかった。
- ・ペーパーレス化が進んでおらず、教職員及び保護者向けともに紙による情報発信が多かった。

実践の概要

校務支援システムやメールの一層の活用

- ・校務支援システムの「連絡掲示板」の確認を必須とすることにより情報共有を図るとともに、夕方の打合せを毎日から週に3日とし、他の業務に時間を使えるようにした。
- ・学校における印刷業務及び受け取る保護者の負担軽減のため、学校だよりの家庭配布を9月からメール配信とした。その後、各学級の学級だよりにも広がっている。
地元企業と連携したテストの自動採点の取組
- ・記述式のテストの採点が負担の大きい業務であることから、地元のIT関連企業と連携し、テストの自動採点システムの開発を行うこととした。
- ・ほっかいどうチャレンジテスト等の記述式回答をPDF化し、自動採点する取組を10月から試行している。



実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・家庭向け情報発信のペーパーレス化について、まずは学校だよりに【校長による教職員への周知資料】から実施し、効果を全体へ周知することにより一層の促進を図った。
- ・ICT活用をはじめとした働き方改革の取組について、学校内での教職員への啓発はもとより、保護者への周知や外部との調整を積極的に行った。

〔加配事務職員の取組〕

- ・テストの自動採点について、採点の精度を上げるために、実際のテスト用紙を使用して試行するなど、地元IT関連企業と連携を密にしてシステムの開発を行った。
- ・校務支援システムの窓口として、様々な機能について、教職員がより活用がしやすいよう、機能の紹介や使い方のサポート等を適宜行った。

成果（ ）と今後の課題（ ）

学校だよりの学級だよりの各種通信のメール配信については、学校評価の自由記述の項目において、「写真がカラーで見やすい」「タイムリーに受け取れてよい」等の肯定的な評価が多く否定的な意見は見られなかった。

校務支援システムの活用による会議等の削減により、全教職員が子どものための時間を確保することができた。

現在はICTの専門性が高い教職員が中心となり業務に当たっているが、人事異動等があった場合でも持続可能な取組とする必要がある。